

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月22日

【事業年度】 第53期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社

【英訳名】 Nippon Computer Dynamics Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 下 條 治

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田四丁目32番1号

【電話番号】 03(5437)1021(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部長兼経理部長 小 林 勇 記

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区西五反田四丁目32番1号

【電話番号】 03(5437)1021(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部長兼経理部長 小 林 勇 記

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	11,946,432	13,115,415	13,843,315	15,405,179	16,237,069
経常利益 (千円)	310,208	257,179	389,399	333,501	807,511
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	124,601	41,865	205,755	249,410	526,635
包括利益 (千円)	133,940	79,310	28,267	417,419	631,751
純資産額 (千円)	2,701,272	2,573,685	2,514,738	2,550,843	3,089,195
総資産額 (千円)	9,603,526	10,058,757	10,232,070	10,851,454	11,070,818
1株当たり純資産額 (円)	309.72	295.09	288.33	321.20	387.80
1株当たり当期純利益 (円)	14.28	4.80	23.59	30.00	66.31
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	28.1	25.6	24.6	23.5	27.8
自己資本利益率 (%)	4.7	1.6	8.1	9.8	18.7
株価収益率 (倍)	20.4	69.4	33.2	18.0	19.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	756,862	554,375	480,387	782,499	791,806
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	212,884	286,921	207,335	72,274	554,084
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	337,311	322,834	201,710	227,489	271,636
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	2,235,885	2,181,371	2,252,141	2,734,408	2,700,542
従業員数〔ほか、 平均臨時雇用人員〕 (名)	805 〔269〕	815 〔410〕	832 〔414〕	863 〔493〕	898 〔527〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	9,672,262	10,960,272	11,720,488	13,176,759	13,929,253
経常利益 (千円)	250,591	271,695	341,749	213,213	694,866
当期純利益 (千円)	108,887	125,620	183,518	131,780	456,653
資本金 (千円)	438,750	438,750	438,750	438,750	438,750
発行済株式総数 (千株)	8,800	8,800	8,800	8,800	8,800
純資産額 (千円)	2,489,685	2,420,492	2,515,762	2,287,594	2,645,237
総資産額 (千円)	8,860,258	9,352,977	9,503,077	9,991,506	10,154,115
1株当たり純資産額 (円)	285.46	277.53	288.45	288.05	333.09
1株当たり配当額 (円)	10.00	10.00	10.00	12.00	14.00
(1株当たり中間配当額)	(5.00)	(5.00)	(5.00)	(5.00)	(6.00)
1株当たり当期純利益 (円)	12.48	14.40	21.04	15.85	57.50
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	28.1	25.9	26.5	22.9	26.1
自己資本利益率 (%)	4.4	5.1	7.4	5.5	18.5
株価収益率 (倍)	23.3	23.1	37.2	34.0	22.9
配当性向 (%)	80.1	69.4	47.5	75.7	24.3
従業員数〔ほか、 平均臨時雇用人員〕 (名)	541 〔208〕	561 〔355〕	554 〔365〕	563 〔418〕	577 〔443〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 平成29年3月期の1株当たり配当額12円には、創立50周年記念配当2円を含んでおります。

2 【沿革】

昭和42年 3月	東京都渋谷区に資本金100万円で設立、システム開発事業を開始
昭和46年 4月	東京都港区南青山に本社移転
昭和54年 4月	福岡市博多区に福岡営業所を開設
平成 2年 2月	通商産業大臣認定のシステム・インテグレータ(認定番号01210022)となる
平成 6年 8月	東京都品川区小山に本社移転
平成 7年10月	サポート&サービス事業を開始
平成 9年10月	パーキングシステム事業を開始
平成11年 4月	東京都品川区西五反田に本社移転
平成12年 9月	株式を日本証券業協会に店頭登録
平成12年11月	全額出資による子会社(株)日本システムリサーチ(現NCDテクノロジー(株))を設立(現連結子会社)
平成13年 5月	国際標準品質管理規格「ISO9001」認証取得
平成16年 3月	中国市場の拠点として、天津市に事務所「日本NCD天津代表処」を開設
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、(株)ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成17年 4月	中国に全額出資による子会社「天津恩馳徳信息系统開発有限公司」(NCD China)を設立(現連結子会社)
平成17年 7月	情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)適合性評価制度の認証をITサービス事業部にて取得
平成18年 6月	プライバシーマークの認証取得
平成19年 7月	情報セキュリティマネジメントシステムISO/IEC 27001適合性評価制度の認証を取得
平成19年12月	(株)ゼクシスの子会社化(現連結子会社)
平成20年 4月	ITサービスマネジメントシステムISO/IEC 2001-1適合性評価制度の認証を取得(対象部署:ITサービス事業部サポートサービス部マネージドサービスセンター(MSC))
平成20年 8月	(株)ゼクシスを株式交換により完全子会社化
平成22年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場
平成23年 5月	長崎県長崎市に長崎営業所を開設
平成25年 7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
平成27年11月	東京都江東区に江東サービスセンターを開設
平成29年 2月	全額出資による子会社East Ambition(株)を設立(現連結子会社)
平成30年 3月	NCDプロス(株)を設立(現連結子会社)

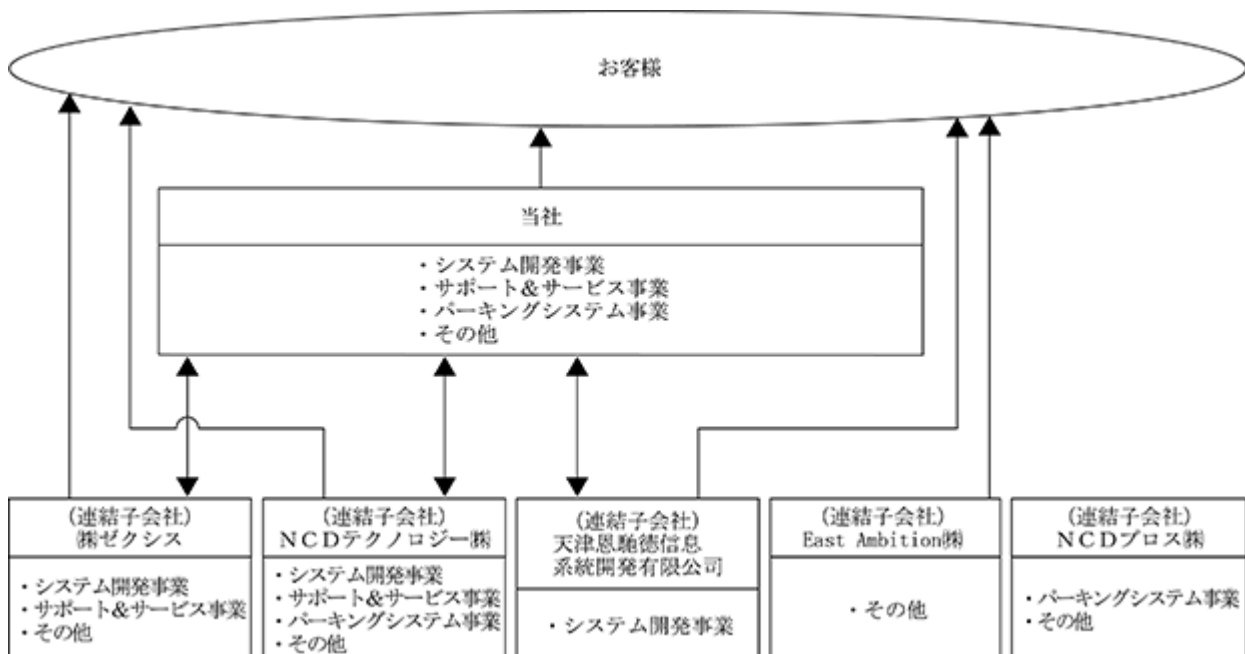
3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社5社で構成されており、システム開発事業、サポート&サービス事業及びパーキングシステム事業を主として行っております。

当社グループ企業とセグメントとの関連は、次のとおりであります。

セグメント	事業内容
システム開発事業 当社 NCDテクノロジー(株) (株)ゼクシス 天津恩馳徳信息系统開発有限公司	システム開発 : コンサルティング システムインテグレーションサービス パッケージソリューションサービス システム維持 : アプリケーションシステムの保守及び運用
サポート&サービス事業 当社 NCDテクノロジー(株) (株)ゼクシス	テクニカルサポートサービス、ヘルプデスクサービス、 アウトソーシングサービス、システム等管理運営
パーキングシステム事業 当社 NCDテクノロジー(株) NCDプロス(株)	自転車駐車場管理システムの販売及び運営、並びにこれらに関するコ ンサルティング、関連商品の販売
その他 当社 NCDテクノロジー(株) (株)ゼクシス East Ambition(株) NCDプロス(株)	その他のサービス

(注) 子会社NCDプロス(株)は平成30年3月1日に設立し、平成30年4月1日より営業開始いたします。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) NCDテクノロジー(株)	東京都品川区	40百万円	システム開発事業 サポート&サービス事業 パーキングシステム事業 その他	100.0	当社からソフトウェア開発、システム保守運用及び駐輪場管理の外注を受けています。 役員の兼任 3名
(連結子会社) (株)ゼクス (注)2、5	大阪市中央区	96百万円	システム開発事業 サポート&サービス事業 その他	100.0	当社からシステム保守運用の外注を受けています。 役員の兼任 2名
(連結子会社) 天津恩馳徳信息系统開発有限公司	中国天津市	300千USドル	システム開発事業	100.0	当社からソフトウェア開発を受託しています。 役員の兼任 4名
(連結子会社) East Ambition(株)	東京都品川区	40百万円	その他	100.0	役員の兼任 3名
(連結子会社) NCDプロス(株) (注)3	東京都品川区	30百万円	パーキングシステム事業 その他	67.0	役員の兼任 2名

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 特定子会社であります。

3. 平成30年3月1日にNCDプロス株式会社を設立し、平成30年4月1日より営業開始いたします。

4. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

5. (株)ゼクスについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	1,903百万円
	(2) 経常利益	111百万円
	(3) 当期純利益	73百万円
	(4) 純資産額	1,122百万円
	(5) 総資産額	1,693百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
システム開発事業	436 [36]
サポート&サービス事業	324 [99]
パーキングシステム事業	87 [385]
その他	5 [3]
全社(共通)	46 [4]
合計	898 [527]

(注) 1. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。

2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3. 臨時従業員には、契約社員、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

4. 全社(共通)は、総務部、人事部及び経理部等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
577 〔443〕	38.5	12.9	5,882

セグメントの名称	従業員数(名)
システム開発事業	284 〔16〕
サポート&サービス事業	186 〔57〕
パーキングシステム事業	58 〔363〕
その他	3 〔3〕
全社(共通)	46 〔4〕
合計	577 〔443〕

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
3. 臨時従業員には、契約社員、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
4. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
5. 全社(共通)は、総務部、人事部及び経理部等の管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社（略称NCD）は、「ユニークなソフトウェア技術により、明るい未来に貢献する」ことを基本に、顧客、社員、社会に対して3つの経営理念を掲げております。

NCDは、顧客第一に徹し、最適なシステムとサービスの提供により、共存共栄をはかる。

NCDは、社員の個性を尊重し、その資質を発揮させることにより、あたたかな企業文化を確立する。

NCDは、社会に対し、時代の変化を先取りすることにより、調和のある世界に貢献する。

当社グループは、上記経営理念を共有し、各社の特徴を生かしながら、グループとしてお客様に最適なソリューションを提供してまいります。

今後とも創業からの精神に基づき、顧客企業の信頼はもとより、社員の士気向上によって磐石な経営基盤を築き、情報サービス産業の発展と調和のある社会の実現に向けて、一層の努力をしております。また、株主をはじめ投資家の皆様にとって魅力ある企業グループであり続けるために、企業価値を高めていく経営を推進してまいります。

(2) 経営戦略等

当社グループは、平成29年3月に創立50周年を迎えたのを機に、新たに平成30年3月期から平成32年3月期に向けての3カ年中期経営計画「Vision2020」を策定いたしました。

『お客様の「ありがとう」のために、価値あるサービスを』をコンセプトとし、新しいライフスタイルや技術環境の変化に対応し、お客様の期待を超えるサービスを提供することでお客様に満足いただける事が、NCDグループの願いです。

その基本方針といたしましては、収益性の高い企業になる、NCDブランドを高め、世の中に認知される企業になる、社員が仕事に誇りとやりがいを持った、活力ある企業になる、ことを掲げて参ります。

具体的な数値目標といたしましては、平成32年3月期のグループ連結、売上高180億円、営業利益10億円、営業利益率5.6%を目指し、株主様への安定的かつ継続的な利益還元を図ってまいります。

また、重点施策といたしまして、グループを上げて、業務プロセス改善による収益性の向上や、働き方改革による企業競争力の向上も図ります。

IT関連事業においては、オリジナル技術・サービスの開発や、課金型ビジネスの拡大を図ります。

パーキングシステム事業においては、月極め駐輪事業の拡大と電磁ロック式駐輪場 No.1の堅持と管理台数50万台達成を目指します。

(3) 経営環境並びに事業上及び財務上の対処すべき課題

当情報サービス業界におきましては、企業の収益改善を背景にIT投資は増加傾向にあるものの、ITサービスに対する企業のコスト削減姿勢は変わらず、価格面の抑制傾向は続いております。

一方自転車活用に関する国内状況につきましては、昨年5月に自転車活用推進法が施行され、国民の健康志向や環境意識の高まりを背景に、急速に活況を呈してきました。

当社グループのシステム開発事業におきましては、IT環境の変化に柔軟に対応できる生販一体化した体制をより強固なものとし、更なる受注強化を目指してまいります。一方、収益面につきましては、各プロジェクトの採算、実績、リスク等の管理体制が安定的に稼働しており、これらをより盤石なものとする、及びストックビジネスの拡大、課金型ビジネスの推進により、安定的に高収益を生み出せる体質への強化を図ってまいります。

サポート&サービス事業におきましては、子会社での技術要員確保が軌道に乗り、安定した収益が見込める体質になりました。さらに、お客様企業の要望により発足した、ITインフラ全般を包括してサポートするMSC(マネージドサービスセンター)(注)の業績が順調に伸びており、この度、長崎に第2MSCを立ち上げることになりました。引き続き技術要員の確保と業務ローテーションを実行してゆくとともに、お客様のIT運用・保守に関する要望に応えるべく、現行サービスの育成と新たなサービスの創出を図ってまいります。

パーキングシステム事業におきましては、時間貸し駐輪場システムのEcoStation21(エコステーション21)、コミュニティサイクルのecoport(エコポート)、月極め駐輪場システムのECOPool(エコプール)3商品を柱として、競合他社との差別化を図ることにより、更なる拡大を図ってまいります。特に次年度は首都圏自治体の指定管理案件が目白押しであり、既存指定管理案件の継続選定と、新規指定管理案件の獲得に注力し、確実な受注を目指してまいります。また、従来から駐輪場現場業務の収益改善にも取り組んでおり、その一環として本年3月には、駐輪場運営に関する巡回・メンテナンス・集金業務等周辺業務を専門に行う子会社を設立いたしました。一方、本年3月、大崎広小路東急池上線高架下に、自転車を中心とした新しいライフスタイル提案型サイクルショップ「STYLE-B」をオープンいたしました。当店舗の安定した収益確保を目指すとともに、新たなBtoC事業にも果敢に挑戦してまいります。

以上の主要3事業の他に、従来から新たな事業の創出にも積極的に取り組んでおり、将来の第4の事業の柱となるべく育ててまいります。また、当社グループをあげ働き方意識改革にも取り組んでおり、ライフ・ワークバランスの充実、在宅勤務(テレワーク)の実施を重点施策に掲げ、社員が仕事に誇りとやりがいを持った、活力ある企業を目指してまいります。

(注)MSC(マネージドサービスセンター)

お客様のシステム運用部門に代わって、24時間365日、障害監視・復旧、障害原因究明及び是正処置、アプリケーションの維持・メンテナンスまで、ITインフラすべてを包括してサポートする運用保守アウトソーシングサービスです。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財務状況及び株価等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経済状況

当社グループの事業は、経済状況の悪化に伴い企業の情報化投資が抑制されることから、業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 技術の著しい進歩、変化

当社グループの属する業界は、技術の進歩や変化が著しい業界であり、新技術への対応の遅れや相対的技術水準の低下が業績及び財務状況に大きく影響をもたらします。また新技術への対応のための教育投資も投資額によっては影響を及ぼす可能性があります。

(3) 競合会社

業務発注における企業の会社選別の目は年々厳しさを増しており、技術力のみならず、国家資格の取得状況、ISOやISMSなどの認定状況などにも左右される場合があります。加えて、当社顧客の大半は上場大企業や自治体であり、入札方式による受注が増加しているため、大手企業との競合も多く、受注獲得はもとより落札価格によっては業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 業績が下期に偏る傾向

当社グループの業績は、顧客決算が3月に集中していることもあり、上期業績に比して、下期業績が高くなる傾向があります。

(上期・下期別売上高推移表)

期別	上期	下期	通期
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
第51期 (平成28年3月期)	6,347	7,495	13,843
第52期 (平成29年3月期)	7,385	8,019	15,405
第53期 (平成30年3月期)	7,926	8,310	16,237

(5) 固定費の比率大

ソフトウェア業界は人材が全てと言っても過言ではありません。当然にして労働分配率は高く、損益分岐点が高い企業構造にあります。

(6) 個人のスキルに依存

ソフトウェア業界は個人のもつソフトウェア技術、顧客業務知識に依存する傾向が強い業界です。従いまして、新しいプロジェクトの立ち上げ時の人材不足や人事異動による現行プロジェクトの不具合発生などにより、プロジェクトの推進に悪影響を及ぼす場合があります。

(7) 見積りの難しさ

見積時には詳細にわたってシステム化の範囲及びシステム化すべき内容を詰め契約を結びますが、開発途中で当初想定し得なかった処理の発生や、想像以上に開発工数がかかる場合があります。また、システム化の範囲、内容を十分に詰めないままに開発をスタートする場合があります。これらリスクの大きさによっては当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(8) 不採算プロジェクトの発生

当社グループのシステム開発事業においては、プロジェクトの各フェーズ単位での見積精度の向上やプロジェクトマネジメントの強化等により、不採算プロジェクトの発生防止を実施しております。しかしながら、当社グループの責任により納期遅れなどが発生した場合は、顧客に対し責任を負う可能性があります。このように、プロジェクトマネジメントがうまく機能しない場合、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(9) システム納入後の瑕疵担保責任

システム納入時には十分な顧客検証を経て検収にいたるわけですが、実稼働段階において想定し得ないケースによるシステム上の不具合が発生する場合があります。その不具合が当社の責任による場合で、その大きさによっては当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におきましては、IT関連事業、パーキングシステム事業ともに安定した受注獲得が続き、増収とすることができました。一方利益においても、中期経営計画のグループ重点施策として掲げた「業務プロセスの改善による収益性の向上」のための諸施策が効果を現し、安定した収益を生み出せる体質になり、増益となりました。

以上により、当連結会計年度の売上高は、16,237百万円（前期比5.4%増）、営業利益783百万円（前期比125.7%増）、経常利益807百万円（前期比142.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益526百万円（前期比111.2%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

システム開発事業

営業体制強化策が功を奏し順調に案件獲得が進むとともに、地道なプロジェクト進捗管理活動、品質管理強化活動によりプロジェクト採算性が大幅に向上したことにより、増収増益となりました。この結果、売上高5,738百万円（前期比1.2%増）、営業利益549百万円（前期比41.2%増）となりました。

サポート&サービス事業

順調な増員要請に基づく事業拡大が続いたこと、さらに、IT基盤事業拡大や新規領域獲得のための投資に対する回収が進み、安定した収益を生み出せる体質になり、増収増益となりました。この結果、売上高4,524百万円（前期比5.0%増）、営業利益267百万円（前期比109.5%増）となりました。

パーキングシステム事業

自治体向けの機器販売における大型案件の獲得や、駐輪場利用料収入が堅調に推移したこと、さらに業務効率化推進策により収益が改善したことにより、増収増益となりました。この結果、売上高5,948百万円（前期比10.3%増）、営業利益925百万円（前期比24.2%増）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前年と比較して33百万円減少し、2,700百万円となりました。
当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、前年と比較して9百万円増加し、791百万円の流入となりました。主な流入要因は、税金等調整前当期純利益784百万円及び減価償却費227百万円です。一方、主な流出要因は、法人税等の支払額214百万円及び売上債権の増加額135百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、前年と比較して481百万円減少し、554百万円の流出となりました。主な流出要因は、有形固定資産の取得による支出618百万円です。一方、主な流入要因は、有形固定資産の売却による収入124百万円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、前年と比較して44百万円減少し、271百万円の流出となりました。主な流出要因は、長期借入金の返済による支出160百万円、リース債務の返済による支出120百万円及び配当金の支払額100百万円です。一方、主な流入要因は、長期借入れによる収入100百万円です。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
システム開発事業	4,790,309	1.1
サポート&サービス事業	3,977,914	0.2
パーキングシステム事業	4,662,392	6.5
その他	61,627	48.4
合計	13,492,244	1.8

- (注) 1. セグメント間取引は相殺消去しております。
 2. 金額は、製造原価で表示しております。
 3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高		受注残高	
	金額(千円)	前年同期比(%)	金額(千円)	前年同期比(%)
システム開発事業	6,076,427	9.5	4,661,608	7.8
サポート&サービス事業	4,421,392	1.4	3,623,766	2.8
パーキングシステム事業	5,921,710	12.3	1,925,376	1.4
その他	26,403	50.7	20,916	8.1
合計	16,445,933	8.2	10,231,666	2.1

- (注) 1. セグメント間取引は相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 継続的なシステムの保守運用サービスにつきましては、翌連結会計年度の売上見込み額を受注残高に計上しております。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
システム開発事業	5,738,744	1.2
サポート&サービス事業	4,524,665	5.0
パーキングシステム事業	5,948,820	10.3
その他	24,839	20.3
合計	16,237,069	5.4

- (注) 1. セグメント間取引は相殺消去しております。
 2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
メットライフ生命保険株式会社	2,141,025	13.9	2,103,367	13.0

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、見積もりを必要とする事象については見積りに与える要因を適切に仮定した上で評価しております。

ア．棚卸資産は、収益性の低下による簿価引き下げの方法によって評価しております。

イ．無形固定資産として計上されている社内利用のソフトウェア資産は、将来の収益獲得又は費用削減が確実なものであると判断しております。

ウ．工事進行基準を適用した工事契約については、工事収益総額、工事原価総額及び決算日における工事進捗度を合理的に見積もっており、工事の進捗部分については成果の確実性が認められるものと判断しております。

エ．固定資産を特定の取得、建設、開発又は通常の使用によって生じ、当該有形固定資産の除去に関して法令又は契約で要求される法律上の義務及びそれに準ずるものは、資産除去債務に関する会計基準に従って、決算日現在入手可能なすべての証拠を勘案して計上しております。負債計上に当たって利用した将来キャッシュ・フローの見積金額、支出発生までの見込期間及び適用した割引率等の前提条件については合理的で説明可能な仮定及び予測に基づくものであります。

オ．繰延税金資産に関しては、将来の回収可能性を十分に検討し回収可能な額を計上しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの当連結会計年度は、新たに3ヶ年中期経営計画がスタートし、経営成績は好調に推移しました。売上高こそ16,237百万円（計画比1.5%増）ですが、営業利益は783百万円（同30.6%増）、経常利益は807百万円（同34.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益も526百万円（同42.3%増）と、当初計画を大きく上回る業績となりました。

なお、近年入札方式による受注が増加しており、既存の顧客でも数年単位の周期で再入札が行われることが多くっており、その結果は、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因となる可能性があります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、営業活動によるキャッシュ・フローは前年と比較し9百万円増加しましたが、投資活動によるキャッシュ・フローは、若手社員の福利厚生をより充実させるため独身社宅を購入したことによる379百万円の流出等により、前年と比較し481百万円減少しました。

また、財務活動によるキャッシュ・フローについては、大きな設備投資等は無く、運転資金は前年並みに推移し、現金及び現金同等物の増減額は前年と比較し516百万円減少しました。

なお、現在、多額の資本的支出等の計画は見込まれておりません。

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は、次のとおりです。

システム開発事業

プロジェクトの品質・進捗管理を継続して徹底してきたことで不採算案件が減少し、大幅に採算性が向上しました。

サポート&サービス事業

新規領域の獲得を積極的に進めてきた戦略が実を結んできました。

また、新たな顧客に対応するためのセキュリティ対策設備等の増設や、お客様の要望に応えるべくITインフラ全般を包括してサポートするMSC（マネージドサービスセンター）を長崎にも営業所を増床して立ち上げたため、建物及び構築物10百万円、工具、器具及び備品10百万円が増加しております。

パーキングシステム事業

大型案件の獲得だけでなく今後のストックとなる駐輪場利用料収入の増加や管理受託業務の拡大により安定的な結果を残すことができました。

また、新規の直営駐輪場開設に伴いリース資産173百万円、工具、器具及び備品21百万円が増加しております。

さらに、新たなBtoC事業への挑戦の一環として、自転車を中心とした新しいライフスタイル提案型サイクルショップ「STYLE-B」をオープンさせました。これにより、建物及び構築物61百万円、工具、器具及び備品18百万円が増加しております。

4 【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

5 【研究開発活動】

(システム開発事業)

Newサービスの創出を推進するための「IRT推進部」では『高速データ処理デバイス』の更なる性能向上に努めてまいりました。

当連結会計年度における研究開発費の金額は15百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において、主要な設備に重要な異動はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	リース資産	リース投資 資産		合計
本社 (東京都品川区)	システム開発 事業 サポート& サービス事業 パーキングシ ステム事業 その他	事業所 設備	36,310	20,888		29,460		86,659	535 〔407〕
立川市自転車等駐 車場 (東京都立川市)	パーキングシ ステム事業	駐輪場 設備				29,422		29,422	
社宅 (東京都板橋区他)		社宅	235,871	0	479,959 (1,232.94)			715,830	

- (注) 1. 本社事務所の建物は、賃借しております。賃借料は126,636千円であります。
2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
3. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
				建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	リース資産	合計	
(株)ゼクシス	本社 (大阪市 中央区)	システム開発事業 サポート&サービス事業 その他	事業所 設備	24,510	3,840	1,857	30,208	211 〔5〕

- (注) 1. (株)ゼクシスの本社事務所の建物は、賃借しております。賃借料は27,119千円であります。
2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
3. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 在外子会社

主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月22日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,800,000	8,800,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	8,800,000	8,800,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年8月1日	1,200,000	8,800,000		438,750	334,925	903,593

(注) (株)ゼクシスの株式交換完全子会社に伴うものであります。

株式交換比率 1 : 16.675、発行株式1,200千株、発行価額296.84円、資本準備金増加額334,925千円

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		6	25	29	26	7	4,431	4,524	
所有株式数(単元)		8,905	1,361	6,773	2,221	19	68,696	87,975	2,500
所有株式数の割合(%)		10.12	1.55	7.70	2.52	0.02	78.09	100.00	

(注) 自己株式858,632株は、「個人その他」に8,586単元、「単元未満株式の状況」に32株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
NCD社員持株会	東京都品川区西五反田4丁目32-1	522	6.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	502	6.33
株式会社北斗	群馬県伊勢崎市赤堀今井町2丁目1044-1	430	5.41
下條 武男	東京都文京区	390	4.91
小 黒 節 子	東京都目黒区	280	3.53
寺 内 吉 孝	大阪府堺市東区	190	2.39
山 田 正 勝	東京都練馬区	172	2.17
村 山 俊 生	東京都文京区	167	2.11
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	140	1.77
下 條 治	東京都板橋区	119	1.50
計		2,913	36.70

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は502千株であります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 858,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,938,900	79,389	
単元未満株式	普通株式 2,500		
発行済株式総数	8,800,000		
総株主の議決権		79,389	

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本コンピュータ・ダイ ナミクス株式会社	東京都品川区西五反田 四丁目32-1	858,600		858,600	9.76
計		858,600		858,600	9.76

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

当社は、平成29年6月23日開催の第52回定時株主総会（以下「本総会」という）決議により、取締役に対する退職慰労金制度を本総会終結時をもって廃止すること、及び退職慰労金の打ち切り支給、並びに取締役（非業務執行取締役及び監査等委員である取締役を除く）、執行役員（以下「取締役等」という）を対象とした業績連動型株式報酬制度（以下「本制度」という）を導入することにいたしました。

本制度の概要

本制度の導入は、取締役等の報酬と会社業績及び当社の株式価値との連動性をより明確にし、当社の中期経営計画「Vision2020」（以下「本中期経営計画」という）に基づく中長期的な業績の向上による持続的成長と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的としております。

本制度は、当社の取締役等に対して、役位に基づき、会社業績指標の達成度に応じて、当社普通株式を交付する業績連動型の株式報酬制度です。

本制度の仕組み

本制度の対象期間は、本中期経営計画の対象期間である平成30年3月期から平成32年3月期までの3事業年度といたします。

本中期経営計画の最終年度の会社業績の数値目標達成度に応じて、取締役等の役位に基づき、下記に記載の算式により求められた交付株式数に相当する金銭報酬債権（ ）を付与いたします。

取締役等は、当社の自己株式の処分の際に当該金銭報酬債権を現物出資することにより、当社普通株式を取得します。

（ ）金銭報酬債権の金額については、対象期間終了後の取締役会において決定するものとし、当該取締役会開催日の前営業日の東京証券取引所の当社普通株式終値に、各取締役等に対する交付株式数を乗じて算出するものといたします。

本制度に基づき各取締役等に対して交付される当社株式数
以下の算式に基づき、交付する株式数を算出いたします。

(算式)

イ 基準交付株式数

= 取締役等の役位に基づく報酬基準に応じて定める金額 / 基準株価 () × 3 (事業年度分)

() 基準株価: 平成29年6月23日開催の当社定時株主総会前日の当社普通株式の終値

ロ 各取締役等に対する交付株式数 (1)

= 基準交付株式数 × 業績連動支給率 (2)

(1) 算出した交付株式数に単元未満株が生じる場合、単元未満株式は切り捨てるものといたします。

(2) 業績連動支給率は、各取締役等の数値目標(売上高及び営業利益)に対応する水準を100%とし、目標達成度合いに応じて0%から150%の範囲で定めます。

なお、本制度の対象期間において、取締役等に交付する金銭報酬債権の合計額は、上限を1億5千万円とし、交付する当社普通株式の合計株数を30万株といたします。ただし、当社の発行済株式総数が株式の併合、株式の分割、株式無償割当等によって増減した場合、当該上限及び取締役等に対する交付株式数は、その比率に応じて合理的に調整いたします。

本制度の株式交付要件

本制度においては、対象期間が終了し、以下の株式交付要件を満たした場合、取締役等に対して当社普通株式を交付いたします。

イ 対象期間中に取締役等として在任したこと

ロ 一定の非違行為がなかったこと

ハ その他株式報酬制度としての趣旨を達成するために必要と認められる要件

a 対象期間中に取締役等が退任する場合(死亡による退任の場合を除く)においては、1年単位(1年に満たない場合は、切り捨てる)で在籍年数に応じて按分した数の当社普通株式を交付いたします。

b 対象期間中に新たに就任した取締役等においては、1年単位(6ヶ月以上在籍した場合は、1年に切り上げる)で在籍年数に応じて按分した数の当社普通株式を交付いたします。

c 取締役等の対象期間中の死亡による退任の場合においては、1年単位(6ヶ月以上在籍した場合は、1年に切り上げる)で在籍年数に応じて按分した数の当社普通株式を交付いたします。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	48	62
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	858,632		858,632	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

企業体質の強化と積極的な事業展開に備えて内部留保に努めるとともに、配当性向や配当利回りなどを総合的に判断し、安定的な配当を維持することを基本方針として実践してまいりました。今後におきましても経営基盤の一層の強化と積極的な事業展開を継続しつつ、適切な利益還元を実施してゆく所存であります。

なお、剰余金の配当については、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、取締役会であります。

内部留保資金の使途につきましては、今後の積極的な事業展開に投資してまいりたいと考えております。

上記方針に基づき、平成30年3月期の期末配当につきましては、業績が堅調に推移したことや配当性向などを総合的に勘案した結果、直近予想6円から2円増配し、普通配当を1株当たり8円といたしました。

これにより、平成30年3月期の年間配当は、既に実施した中間配当6円と合わせ、1株当たり14円となります。

なお、平成31年3月期の年間配当は、1株当たり普通配当14円（中間配当7円、期末配当7円）を予定しております。

また、株主の皆様の日頃のご愛顧にお応えするとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの皆様に当社の事業へのご理解とご支援をいただくことと、中長期的に当社株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的に、株主優待制度も取り入れております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当金 (円)
平成29年10月27日 取締役会決議	47,648	6
平成30年5月15日 取締役会決議	63,530	8

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	343	384	4,280	791	1,731
最低(円)	255	278	315	471	495

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月
最高(円)	1,108	1,294	1,390	1,534	1,731	1,562
最低(円)	810	933	1,065	1,232	1,200	1,160

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員 の 状況】

男性10名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %))

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		下 條 治	昭和33年1月19日生	昭和61年3月 当社入社 平成9年10月 当社北海道支店長 平成12年11月 (株)日本システムリサーチ(現NCDテクノロジー(株))取締役(現任) 平成17年4月 同社代表取締役社長 平成17年4月 天津恩馳徳信息系统開発有限公司 董事(現任) 平成20年6月 当社取締役執行役員 平成22年4月 当社第2システムソリューション 事業部長 平成24年4月 当社代表取締役社長(現任) 平成28年5月 (株)ゼクシス取締役(現任) 平成29年2月 East Ambition(株)取締役(現任)	(注)2	119
取締役 常務執行役員	パーキング システム事 業部担当兼 CMカンパ ニー担当	上 田 晋 太 郎	昭和39年8月7日生	平成13年5月 当社入社 平成18年4月 当社パーキングシステム事業部営 業2部長 平成23年4月 当社執行役員 当社パーキングシステム事業部副 事業部長 平成24年4月 当社パーキングシステム事業部長 平成26年6月 当社取締役(現任) 平成28年4月 当社パーキングシステム事業部長 兼新公共政策推進室担当 平成28年6月 当社常務執行役員(現任) 平成29年4月 当社パーキングシステム事業部長 兼クリエイティブマーケティング 部長 平成30年3月 NCDプロス(株)取締役(現任) 平成30年4月 当社パーキングシステム事業部担 当兼CMカンパニー担当(現任)	(注)2	10
取締役 執行役員	管理本部長 兼経理部長	小 林 勇 記	昭和37年12月9日生	平成10年12月 当社入社 平成18年4月 当社経理部長 平成25年4月 当社執行役員(現任) 平成27年4月 当社管理本部長兼経理部長(現任) 平成28年5月 (株)ゼクシス取締役(現任) 平成28年6月 当社取締役(現任) 平成29年2月 East Ambition(株)監査役(現任) 平成29年6月 当社管理本部長兼経理部長兼経営 企画室担当 平成29年8月 天津恩馳徳信息系统開発有限公司 監事(現任) 平成30年3月 NCDプロス(株)取締役(現任)	(注)2	5
取締役 執行役員	IT事業本 部長兼情 報管理部 担当兼マ ネジメント 支援室 担当	高 木 洋	昭和43年7月4日生	平成28年4月 当社入社 当社執行役員(現任) 当社IT事業統括担当 平成28年6月 当社取締役(現任) 当社IT事業部担当 平成29年2月 East Ambition(株)取締役(現任) 平成29年4月 当社IT事業部担当兼情報管理部 担当 平成29年6月 当社IT事業部担当兼情報管理部 担当兼IRT推進部担当 平成29年8月 天津恩馳徳信息系统開発有限公司 董事長(現任) 平成30年3月 NCDテクノロジー(株)取締役 平成30年4月 同社代表取締役社長(現任) 当社IT事業本部長兼情報管理部 担当兼マネジメント支援室担当 (現任)	(注)2	2
取締役		高 木 洋 二	昭和24年7月25日生	昭和48年4月 大阪商船三井船舶(株)(現(株)商船三 井)入社 平成10年7月 商船三井システムズ(株)取締役 平成16年7月 同社常務取締役 平成22年7月 同社専務取締役 平成24年6月 同社顧問 平成27年6月 当社取締役(現任)	(注)2	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		宮田 晴雄	昭和28年1月6日生	昭和51年4月 山崎製パン(株)入社 昭和57年7月 A I U 保険会社入社 昭和62年8月 アメリカンライフインシュアランスカンパニー(現メットライフ生命保険(株))入社 平成14年1月 同社執行役員 平成16年8月 A I G イースト・アジア・ホールディングス・マネジメント・インク生命保険担当 R V P & C I O 平成21年3月 アメリカンライフインシュアランスカンパニー(現メットライフ生命保険(株))システム担当執行役員 平成24年12月 メットライフ生命保険(株)執行役員 常務 C T O 平成30年6月 当社取締役(現任)	(注) 2	
取締役 (監査等委員)		中山 かつお	昭和40年5月9日生	平成3年10月 太田昭和監査法人(現新日本有限責任監査法人)入所 平成4年3月 公認会計士登録 平成19年6月 当社監査役 平成19年8月 あすなる監査法人代表社員 平成22年6月 (株)アイティフォー取締役(現任) 平成27年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 3	28
取締役 (監査等委員)		奥野 滋	昭和27年2月15日生	昭和60年4月 弁護士登録 平成16年4月 第二東京弁護士会副会長、日本弁護士連合会常務理事 平成19年1月 当社顧問弁護士 平成19年4月 第二東京弁護士会事務局長 平成19年5月 (財)日本法律家協会幹事(現任) 平成23年12月 原子力損害賠償紛争解決センター仲介委員(現任) 平成29年4月 第二東京弁護士会常議員会議長(現任) 平成29年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 3	
取締役 (監査等委員)		松山 裕	昭和23年12月25日生	昭和46年4月 (株)日本タイムシェア入社 昭和49年11月 アメリカンライフインシュアランスカンパニー(現メットライフ生命保険(株))入社 平成13年4月 A I G スター生命保険(株)(現ジブラルタ生命保険(株))執行役員 平成16年9月 アメリカンライフインシュアランスカンパニー(現メットライフ生命保険(株))執行役員 平成23年1月 同社常務執行役員 平成29年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 3	
取締役 (監査等委員)		和津田 保	昭和31年4月30日生	平成2年2月 当社入社 平成10年4月 当社九州支店長 平成18年4月 当社第1システムソリューション事業部開発2部長 平成20年4月 当社執行役員 平成24年4月 当社IT事業部基盤サービス部長 平成28年4月 当社内部監査室長 平成30年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注) 4	1
計						165

(注) 1. 取締役高木洋二、取締役宮田晴雄、取締役中山かつお、取締役奥野滋及び取締役松山裕は、社外取締役であります。

2. 監査等委員以外の取締役の任期は、平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

3. 監査等委員である取締役(和津田保を除く)の任期は、平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4. 監査等委員である取締役和津田保の任期は、平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5. 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。

委員長 和津田保、委員 中山かつお、委員 奥野滋、委員 松山裕

6. 当社は、経営の意思決定と業務執行の迅速化を図り、各部門の責任を明確にすることで経営効率を高めるため、執行役員制度を導入しております。なお、執行役員数は4名(取締役による兼任を除く)であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、継続繁栄の条件として、機動性のある業務執行体制とコンプライアンスを重視した経営を念頭に、内部統制の充実につとめることとあります。

企業統治の体制

体制といたしましては、執行役員制度を充実させ、経営の意思決定と業務執行の迅速化を図り、各部門の業務執行責任を明確にしております。また、社外取締役を選任し、取締役会の活性化と経営の強化及び執行役員への監督機能を強化しております。

執行役員会は、取締役会で選任された業務執行の責任者である執行役員、取締役、内部監査室長及び子会社役員で構成され、毎月1回開催しております。審議内容については、各部門の業務遂行状況に関する報告、課題の検討、業務運営方針の決定等を行っており、業務監督、監査機能を持たせることで相互の監視抑制力とともに緊張感のある組織体制となっております。

取締役会においても、社外取締役を含めた定例会議を毎月開催しており、外部の意見も十分反映できる体制ができております。

現在の経営管理組織としては、取締役（監査等委員である取締役を除く）6名（内、社外取締役2名）、監査等委員である取締役1名及び社外取締役3名、執行役員8名（内、取締役による兼任4名）であります。

なお、平成20年12月20日開催の取締役会において、内部統制システムに関する基本方針について決議しております。この基本方針につきましては、内容の適宜見直しを行っており、現在の内容は以下のとおりであります。

（内部統制システムに関する基本方針）

1．内部統制システム構築に関する基本方針

- (1) 当社は、内部統制システムの整備にあたり、法令の遵守、損失の危機管理および適正かつ効率的な事業運営を目的に各種対策を講じる。
- (2) 内部統制システムの整備・運用のため、内部統制委員会を設置し、規程・体制等の整備を行うとともに、内部統制システムの有効性を評価した上で、必要な改善を実施する。

2．内部統制システムに関する体制の整備

- (1) 取締役および社員の職務執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社グループ（当社およびその子会社からなる企業集団をいう）は、企業倫理の確立ならびに取締役および社員による法令、定款および社内規程の遵守の確保を目的に「NCDグループ行動規範」を制定し、その周知徹底を図る。

取締役は、重大な法令違反その他会社規程等の違反に関する重要な事実を発見した場合は、直ちに監査等委員に報告するとともに、遅滞なく取締役会において報告する。

内部監査室は、各部門の日常的な活動状況について、法令や社内規程の遵守に関して計画的な監査を実施し、代表取締役社長および監査等委員に報告する。

- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る重要な文書および情報（議事録、決裁関係書類、契約書、会計・財務関係書類等）は、文書および情報の管理に関する社内規程に基づき、所管部署において適切な管理を行う。

取締役から、当該文書および情報の閲覧の要求があった場合は、速やかに提出する。

- (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

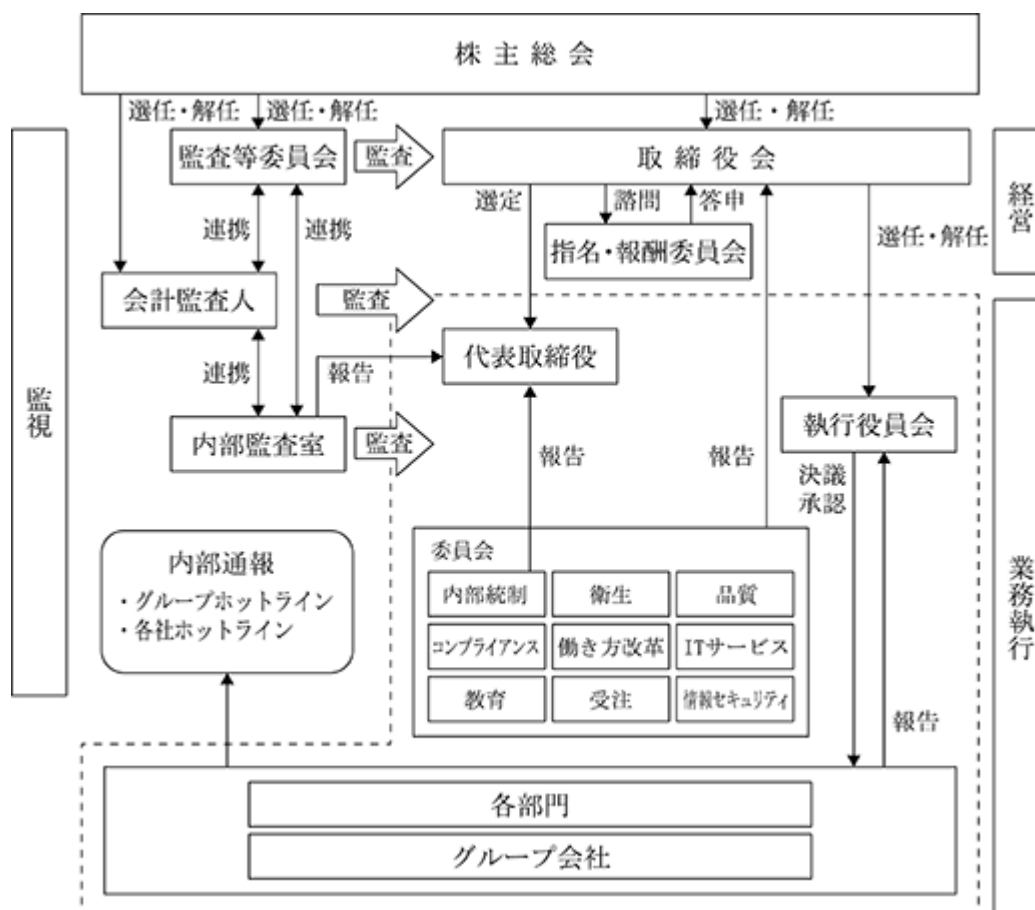
事業上発生しうる損失の危険（以下「リスク」という）に備えるため、各種損失に関する規程（内部情報管理規程、機密情報保護規程、個人情報保護規程等）を制定する。

内部統制委員会は、各種規程に基づき内部統制システムの整備、リスクの未然防止について検討、対処する。

取締役会は、リスク管理の状況について監視し、必要に応じて指示を行う。

- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- 取締役の適切な責任分担と監督体制により効率的な事業運営を行うため、組織の構成と各組織の役割を定めた、組織規程と職務権限規程を制定する。
- 取締役会規程を定め、毎月開催される取締役会において経営に関する重要事項について決定を行うとともに、職務の執行状況について報告する。
- 取締役会は、執行役員を任命し執行役員に対して権限委譲を行うことで、事業運営に関する迅速な意思決定および機動的な職務執行を推進する。また、毎月の執行役員会で執行役員より職務執行に関する報告を受ける。
- (5) 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制
- 子会社に対し取締役の派遣や「NCDグループ行動規範」に基づいた業務遂行の情報共有を行うとともに、子会社の遵法体制その他業務の適正を確保するための体制の整備に関する指導および支援を行う。
- 当社は、当社グループ各社の業態やリスクの特性等に応じた適切なリスク管理を、会社毎に実施させる。子会社の取締役は、当社が毎月開催する執行役員会、あるいは必要に応じて取締役会に出席し、当該子会社の経営活動について報告する。
- 経理部は、子会社の経営内容を把握し、不正・誤謬の発生を防止するため、子会社から定期的に事業および経理に関する報告を求める。
- (6) 監査等委員の職務を補助すべき社員に関する事項およびその社員の取締役からの独立性に関する事項
- 監査等委員がその職務を補助すべき社員を置くことを求めた場合、監査等委員と協議のうえ、監査等委員を補助する社員を指名するものとする。
- 指名された社員の指揮権は、補助すべき業務を遂行する期間において監査等委員に移譲されたものとし、当該業務遂行中は他の指揮命令を受けないものとする。
- 当該社員の人事異動、評価等については監査等委員の意見を尊重し対処するものとする。
- (7) 取締役および社員が監査等委員に報告するための体制および監査等委員の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 監査等委員は、執行役員会や取締役会に出席し、さまざまな報告を求めることができる。
- 取締役および社員は、監査等委員から業務執行等に関する事項の報告を求められた場合は、速やかに当該事項の報告を行う。
- 当社は、当社グループ各社の取締役、監査役または社員が、当社グループ各社の業務執行に関し重大な法令もしくは社内ルールに違反、または会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見したとき、これらの者またはこれらの者から報告を受けた者が、当社の監査等委員に報告を行う体制を整備する。
- 当社は、当社グループ各社において、上記の報告を行った者に対し、当該報告を行ったことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。
- 当社は、監査等委員の職務の執行に係る費用等について、当社が監査等委員の職務の執行に必要ないと認められる場合を除き、これを支払う。
- (8) 財務報告の適正性を確保するための体制
- 財務報告の重要性を理解し、財務報告の適正性を確保するため関連諸規程および内部統制システムを整備する。
- 内部統制システムは取引の発生から財務諸表が作成される過程において、虚偽や誤りが生じる要因を洗い出し、これらリスクがコントロールできるように設計する。
- 内部統制システムの有効性を整備面および運用面から評価し、不備が発見された場合は速やかに是正するとともに、期末時点での状況について適正な開示を行う。

当社の内部管理体制は次のとおりであります。



内部監査及び監査等委員監査

監査機能といたしましては、監査等委員会の体制を、取締役1名及び社外取締役3名とし、監査等委員は、監査等委員相互の協議に基づき作成された監査計画に従い、分担して監査を行うとともに、適宜、会計監査人や内部監査室との情報交換を行い、ガバナンスの確立を図っております。また監査等委員は、取締役会、執行役員会等社内重要会議に出席し、それぞれの専門能力と豊富な経験を活かし、意見を述べるとともに、内部統制強化に資する助言、提言を行っております。なお、社外取締役の中山かつお氏は公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

また、内部監査室を設け、専任者1名を配置しております。内部監査室は、監査計画に基づき、各部門の監査を実施し、業務執行の適正性を確保するとともに、業務改善に向けた助言や勧告を行っております。監査状況につきましては、全て社長に報告するとともに、各監査等委員にも報告が行われております。なお、内部監査室長は執行役員会に出席しており、各監査等委員、会計監査人とも適宜連携をとり、監査の実効性確保に努めております。

社外取締役

当社の社外取締役である高木洋二氏、松山裕氏及び宮田晴雄氏は、それぞれ当社の取引先である商船三井システムズ(株)及びメットライフ生命保険(株)の出身ですが、取引の内容に照らして重要な利害関係はありません。また、当社の社外取締役である中山かつお氏及び奥野滋氏とも当社との重要な利害関係はありません。

なお、当社は、社外取締役等を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	株式報酬	
取締役 (監査等委員及び社外取締役を 除く。)	117,617	82,500	3,906	4,415	26,796	6
監査等委員 (社外取締役を除く。)						
社外役員	14,950	14,700		250		6

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

ハ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

a. 役員の基本報酬は、世間水準及び経営内容、従業員給与等とのバランスを考慮するものとし、株主総会が決定した報酬総額の限度内において、取締役(監査等委員である取締役を除く)は取締役会で、監査等委員である取締役は監査等委員である取締役の協議で決定する。

b. 役員賞与(業績連動給与)は、取締役(非業務執行取締役及び監査等委員である取締役を除く)に対して、株主総会が決定した取締役(監査等委員である取締役を除く)の報酬等の限度内(月額2,000万円以内)において、会社の各事業年度の営業成績に応じた当社内規に定める基準に基づき、指名・報酬委員会の答申を得て、取締役会で決定する。

(業績連動給与の算定方法)

業績連動給与支給額 = 取締役の月額給与額 / 2 × 業績連動支給率

業績連動支給率は、各取締役の数値目標(売上高及び営業利益)に対応する水準を100%とし、目標達成度合いに応じて0%から150%の範囲で定めます。

c. 従来、役員の退職慰労金は、役員が退職する場合に、その在任期間の功労に報いるために、当社内規に定める基準による相当額の範囲内で株主総会の承認を得て支給することとしておりましたが、この制度を平成29年6月23日開催の第52回定時株主総会終了の時をもって廃止いたしました。

なお、退職慰労金制度廃止後も引き続き在任する取締役については、在任期間に応じた退職慰労金を打ち切り支給することとし、その支給の時期は、各取締役が当社の取締役を退任した時としております。

d. 当社は、平成29年6月23日開催の第52回定時株主総会決議により、取締役の報酬と会社業績及び当社の株式価値との連動性をより明確にし、当社の中期経営計画「Vision2020」に基づく中長期的な業績の向上による持続的成長と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度を導入いたしました。

なお、本制度の詳細につきましては、「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (8) 役員・従業員株式所有制度の内容」に記載のとおりです。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 13銘柄

貸借対照表計上額の合計額 154,192千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)Minoriソリューションズ	40,000	53,840	パートナー関係維持
みらかホールディングス(株)	4,600	23,552	取引関係の維持・発展
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	31,000	21,690	取引関係の維持
NCS & A(株)	61,600	18,356	パートナー関係維持
(株)SRAホールディングス	2,000	5,888	パートナー関係維持
高砂熱学工業(株)	2,000	3,132	取引関係の維持・発展
西部瓦斯(株)	7,000	1,792	取引関係の維持・発展
(株)りそなホールディングス	700	418	取引関係の維持

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)Minoriソリューションズ	40,000	58,520	パートナー関係維持
NCS & A(株)	61,600	23,469	パートナー関係維持
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	31,000	21,607	取引関係の維持
みらかホールディングス(株)	4,600	19,113	取引関係の維持・発展
(株)SRAホールディングス	2,000	6,110	パートナー関係維持
高砂熱学工業(株)	2,000	3,908	取引関係の維持・発展
西部瓦斯(株)	700	1,927	取引関係の維持・発展
(株)りそなホールディングス	700	393	取引関係の維持

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名	継続監査年数
指定有限責任社員 業務執行社員	横内 龍也	新日本有限責任監査法人	(注)
	小野原 徳郎		(注)

(注) 継続監査年数が7年以内のため、記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士6名、その他21名であります。

取締役の定数

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）は7名以内とし、監査等委員である取締役は4名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任は、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区別して、株主総会において選任する旨を定款で定めております。また、取締役の選任議案は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は累積投票によらない旨も定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ 自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ロ 剰余金の配当

当社は、資本政策及び配当政策を図るため、剰余金の配当等会社法第459条第1項に定める事項については、法令に特段の定めがある場合を除き、取締役会決議によって定めることとする旨を定款で定めております。

ハ 取締役の責任免除

当社は、取締役が期待される役割を十分に発揮できるようにするため会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会決議によって取締役（取締役であった者を含む）の会社法第423条第1項の損害賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には、法令の範囲内で免除できる旨定款で定めております。

責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等である者を除く）は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額としております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	28,000		29,000	
連結子会社				
計	28,000		29,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、又は、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制の整備のため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構の主催する研修会等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 2,922,598	1 2,888,737
受取手形及び売掛金	2,306,832	2,441,894
リース債権及びリース投資資産	742,907	683,818
商品及び製品	40,318	41,972
仕掛品	149,395	87,719
繰延税金資産	197,662	203,699
その他	181,581	199,433
流動資産合計	6,541,296	6,547,276
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	244,570	554,943
減価償却累計額	152,572	166,426
建物及び構築物（純額）	1 91,998	1 388,516
工具、器具及び備品	717,504	667,426
減価償却累計額	545,285	505,106
工具、器具及び備品（純額）	172,219	162,320
土地	1 317,735	1 482,259
リース資産	545,511	688,311
減価償却累計額	218,408	286,462
リース資産（純額）	327,103	401,848
その他	7,441	276
減価償却累計額	7,414	249
その他（純額）	26	27
有形固定資産合計	909,083	1,434,972
無形固定資産	112,321	78,438
投資その他の資産		
投資有価証券	1 409,603	1 427,330
繰延税金資産	601,160	579,487
リース債権及びリース投資資産	1,807,463	1,500,249
その他	470,526	503,064
投資その他の資産合計	3,288,753	3,010,131
固定資産合計	4,310,158	4,523,542
資産合計	10,851,454	11,070,818

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	698,606	629,287
短期借入金	1 907,301	1 907,301
1年内返済予定の長期借入金	1 135,000	1 135,000
リース債務	835,132	807,795
未払法人税等	164,970	232,759
賞与引当金	439,345	481,651
その他	771,102	849,929
流動負債合計	3,951,458	4,043,723
固定負債		
長期借入金	1 235,000	1 175,000
リース債務	2,042,002	1,775,022
賞与引当金		26,985
役員退職慰労引当金	131,510	67,102
株式報酬引当金		37,500
退職給付に係る負債	1,850,182	1,701,111
その他	90,455	155,177
固定負債合計	4,349,152	3,937,900
負債合計	8,300,610	7,981,623
純資産の部		
株主資本		
資本金	438,750	438,750
資本剰余金	903,593	903,593
利益剰余金	1,443,603	1,866,999
自己株式	317,401	317,463
株主資本合計	2,468,544	2,891,879
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	60,220	70,221
為替換算調整勘定	1,199	1,167
退職給付に係る調整累計額	20,878	116,397
その他の包括利益累計額合計	82,299	187,786
非支配株主持分		9,529
純資産合計	2,550,843	3,089,195
負債純資産合計	10,851,454	11,070,818

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
売上高	15,405,179	16,237,069
売上原価	13,277,569	13,552,336
売上総利益	2,127,609	2,684,733
販売費及び一般管理費		
役員報酬	173,160	185,400
給料及び手当	498,750	558,883
賞与引当金繰入額	62,533	75,590
退職給付費用	86,340	43,388
役員退職慰労引当金繰入額	21,046	12,938
株式報酬引当金繰入額		37,500
その他	1 938,556	1 987,379
販売費及び一般管理費合計	1,780,387	1,901,080
営業利益	347,222	783,653
営業外収益		
受取利息	82	77
受取配当金	3,934	5,056
補助金収入	5,026	17,732
受取保険金及び配当金	3,647	8,488
受取家賃	4,668	5,623
その他	9,262	9,499
営業外収益合計	26,620	46,476
営業外費用		
支払利息	17,666	18,656
固定資産除却損	2,879	3,230
自己株式取得費用	17,267	
その他	2,527	731
営業外費用合計	40,341	22,618
経常利益	333,501	807,511
特別損失		
固定資産除却損		2 5,820
減損損失	2,557	17,212
関係会社清算損	1,816	
特別損失合計	4,374	23,033
税金等調整前当期純利益	329,126	784,478
法人税、住民税及び事業税	186,378	289,606
法人税等調整額	106,662	31,392
法人税等合計	79,715	258,214
当期純利益	249,410	526,264
非支配株主に帰属する当期純損失()		370
親会社株主に帰属する当期純利益	249,410	526,635

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	249,410	526,264
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25,345	10,001
為替換算調整勘定	54	31
退職給付に係る調整額	142,717	95,518
その他の包括利益合計	1 168,008	1 105,487
包括利益	417,419	631,751
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	417,419	632,122
非支配株主に係る包括利益		370

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	438,750	903,593	1,277,506	19,402	2,600,447
当期変動額					
剰余金の配当			83,314		83,314
親会社株主に帰属する当期純利益			249,410		249,410
自己株式の取得				297,999	297,999
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			166,096	297,999	131,903
当期末残高	438,750	903,593	1,443,603	317,401	2,468,544

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	34,874	1,253	121,838	85,709		2,514,738
当期変動額						
剰余金の配当						83,314
親会社株主に帰属する当期純利益						249,410
自己株式の取得						297,999
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	25,345	54	142,717	168,008		168,008
当期変動額合計	25,345	54	142,717	168,008		36,105
当期末残高	60,220	1,199	20,878	82,299		2,550,843

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	438,750	903,593	1,443,603	317,401	2,468,544
当期変動額					
剰余金の配当			103,238		103,238
親会社株主に帰属する当期純利益			526,635		526,635
自己株式の取得				62	62
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			423,396	62	423,334
当期末残高	438,750	903,593	1,866,999	317,463	2,891,879

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	60,220	1,199	20,878	82,299		2,550,843
当期変動額						
剰余金の配当						103,238
親会社株主に帰属する当期純利益						526,635
自己株式の取得						62
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	10,001	31	95,518	105,487	9,529	115,016
当期変動額合計	10,001	31	95,518	105,487	9,529	538,351
当期末残高	70,221	1,167	116,397	187,786	9,529	3,089,195

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	329,126	784,478
減価償却費	211,728	227,613
貸倒引当金の増減額 (は減少)	11,440	
賞与引当金の増減額 (は減少)	14,603	42,305
退職給付に係る負債の増減額 (は減少)	252,592	11,436
役員退職慰労引当金の増減額 (は減少)	38,236	64,408
受取利息及び受取配当金	4,016	5,134
支払利息	17,666	18,656
売上債権の増減額 (は増加)	283,529	135,028
たな卸資産の増減額 (は増加)	17,256	60,084
仕入債務の増減額 (は減少)	93,134	69,460
未払消費税等の増減額 (は減少)	60,925	31,487
その他の流動資産の増減額 (は増加)	31,229	9,077
その他の流動負債の増減額 (は減少)	92,227	63,002
その他	129,255	149,153
小計	912,524	1,019,260
利息及び配当金の受取額	4,020	5,134
利息の支払額	17,938	18,357
法人税等の支払額	116,106	214,231
営業活動によるキャッシュ・フロー	782,499	791,806
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	208,189	208,195
定期預金の払戻による収入	208,176	208,189
有形固定資産の取得による支出	251,343	618,764
有形固定資産の売却による収入	220,950	124,553
無形固定資産の取得による支出	34,696	17,008
保険積立金の増減額 (は増加)	13,578	26,148
その他	20,750	16,709
投資活動によるキャッシュ・フロー	72,274	554,084
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	400,000	100,000
長期借入金の返済による支出	130,000	160,000
リース債務の返済による支出	100,599	120,531
配当金の支払額	81,622	100,942
その他	315,267	9,837
財務活動によるキャッシュ・フロー	227,489	271,636
現金及び現金同等物に係る換算差額	469	48
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	482,267	33,866
現金及び現金同等物の期首残高	2,252,141	2,734,408
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,734,408	1 2,700,542

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 5社

連結子会社の名称

NCDテクノロジー株式会社

株式会社ゼクシス

天津恩馳徳信息系统開発有限公司

East Ambition株式会社

NCDプロス株式会社

上記のうち、NCDプロス株式会社は、新規設立により、当連結会計年度から連結子会社に含めておりません。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社の名称

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社及び関連会社はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、天津恩馳徳信息系统開発有限公司の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表を作成するに当たっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

商品及び製品

主に総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法(ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物 10～34年

工具、器具及び備品 5～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、市場販売目的のソフトウェアについては、経済的耐用年数（3年）に基づく定額法によっております。

自社利用ソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

株式報酬引当金

取締役及び執行役員を対象とした業績連動型株式報酬制度による当社株式の交付に備えるため、役員規程に基づき、株式の支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、翌連結会計年度に一括費用処理することとしております。

過去勤務費用については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

受注制作ソフトウェアの計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるもの

工事進行基準（進捗率の見積りは原価比例法）

その他のもの

検収基準

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めて表示しておりました「固定資産除却損」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた5,406千円は、「固定資産除却損」2,879千円、「その他」2,527千円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「自己株式の取得による支出」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「財務活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「自己株式の取得による支出」315,267千円は、「その他」315,267千円として組み替えております。

(追加情報)

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社は、平成29年6月23日開催の第52回の定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給を決議いたしました。

これに伴い、「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打ち切り支給額の未払分37,910千円を「長期未払金」として固定負債の「その他」に含めて表示しております。

なお、一部の国内連結子会社については引き続き、役員の退職慰労金の支給に備えるため内規に基づく要支給額を「役員退職慰労引当金」に計上しております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
現金及び預金	67,000千円	67,000千円
建物及び構築物	20,275千円	17,991千円
土地	112,287千円	112,287千円
投資有価証券	30,986千円	23,287千円
計	230,549千円	220,567千円

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	307,501千円	307,501千円
1年内返済予定の長期借入金	30,000千円	30,000千円
長期借入金	105,000千円	75,000千円
計	442,501千円	412,501千円

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
一般管理費	49,950千円	15,960千円

2 有形固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
工具、器具及び備品	千円	5,820千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	36,871千円	14,914千円
組替調整額	千円	千円
税効果額調整前	36,871千円	14,914千円
税効果額	11,526千円	4,913千円
その他有価証券評価差額金	25,345千円	10,001千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	54千円	31千円
組替調整額	千円	千円
税効果額調整前	54千円	31千円
税効果額	千円	千円
為替換算調整勘定	54千円	31千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	30,084千円	167,719千円
組替調整額	175,560千円	30,084千円
税効果調整前	205,645千円	137,634千円
税効果額	62,927千円	42,116千円
退職給付に係る調整額	142,717千円	95,518千円
その他の包括利益合計	168,008千円	105,487千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	8,800,000			8,800,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	78,516	780,068		858,584

(変動事由の概要)

平成28年7月29日の取締役会決議による自己株式の取得 780,000株

単元未満株式の買取りによる増加 68株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成28年5月16日 取締役会	普通株式	43,607	5円00銭	平成28年3月31日	平成28年6月27日
平成28年10月28日 取締役会	普通株式	39,707	5円00銭	平成28年9月30日	平成28年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	利益剰余金	55,589	7円00銭	平成29年3月31日	平成29年6月26日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	8,800,000			8,800,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	858,584	48		858,632

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 48株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	55,589	7円00銭	平成29年3月31日	平成29年6月26日
平成29年10月27日 取締役会	普通株式	47,648	6円00銭	平成29年9月30日	平成29年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成30年5月15日 取締役会	普通株式	利益剰余金	63,530	8円00銭	平成30年3月31日	平成30年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金	2,922,598千円	2,888,737千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	188,189千円	188,195千円
現金及び現金同等物	2,734,408千円	2,700,542千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、パーキングシステム事業における、駐輪場設備(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(貸主側)

- (1) リース投資資産の内訳

流動資産

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
リース料債権部分	4,647	7,484
見積残存価額部分		
受取利息相当額	2,524	2,938
リース投資資産	2,122	4,545

投資その他の資産

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
リース料債権部分	14,640	19,390
見積残存価額部分		
受取利息相当額	4,278	4,131
リース投資資産	10,362	15,258

- (2) リース投資資産に係るリース料債権部分の連結会計年度末日後の回収予定額

流動資産

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産	4,647					

(単位:千円)

	当連結会計年度 (平成30年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産	7,484					

投資その他の資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産		4,553	3,519	3,519	3,049	

(単位：千円)

	当連結会計年度 (平成30年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産		6,450	6,450	5,980	509	

(転リース取引)

(1) リース投資資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年以内	740,784	679,273
1年超	1,797,101	1,484,991
合計	2,537,886	2,164,265

(2) リース債務

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年以内	740,784	679,273
1年超	1,797,101	1,484,991
合計	2,537,886	2,164,265

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達につきましては主に銀行等金融機関からの借入により調達しております。投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。

リース債権及びリース投資資産は主に転リース契約に係るものであり、転リース先の信用リスクに晒されています。なお、満期保有目的の債券は、格付の高い債券であり、信用リスクは僅少であります。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。

短期借入金は主に営業取引に係る資金調達、長期借入金及びリース債務は主に設備投資に係る資金調達であります。このうち、変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されています。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権について、各事業部門の営業部と共に経理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

連結子会社につきましても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券である株式について、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握することにより、市場リスクを管理しております。

また、変動金利の借入金は、主に短期的な資金調達手段として利用しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

営業債務や借入金について、月次に資金繰計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)			
	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,922,598	2,922,598	
(2) 受取手形及び売掛金	2,306,832	2,306,867	34
(3) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	202,529	204,840	2,310
その他有価証券	187,928	187,928	
(4) リース債権及びリース投資資産	2,550,371	2,471,109	79,261
資産計	8,170,260	8,093,343	76,916
(1) 買掛金	698,606	698,606	
(2) 短期借入金	907,301	907,301	
(3) 長期借入金	370,000	366,588	3,411
(4) リース債務	2,877,135	2,823,384	53,750
負債計	4,853,042	4,795,880	57,162

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)			
	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,888,737	2,888,737	
(2) 受取手形及び売掛金	2,441,894	2,442,492	597
(3) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	200,968	202,560	1,591
その他有価証券	207,217	207,217	
(4) リース債権及びリース投資資産	2,184,068	2,118,837	65,231
資産計	7,922,886	7,859,844	63,042
(1) 買掛金	629,287	629,287	
(2) 短期借入金	907,301	907,301	
(3) 長期借入金	310,000	305,010	4,989
(4) リース債務	2,582,817	2,517,805	65,011
負債計	4,429,405	4,359,404	70,001

(注1)金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらの時価については、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

(4) リース債権及びリース投資資産

これらの時価については、リース料債権ごとに将来キャッシュ・フローを満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

なお、流動資産のリース債権及びリース投資資産を含めて表示しております。

負 債

(1) 買掛金及び(2) 短期借入金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金及び(4) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入又は、リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、長期借入金には1年内返済予定の長期借入金、リース債務には流動負債のリース債務をそれぞれ含めて表示しております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
非上場株式	19,144	19,144

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3)金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	2,904,537			
受取手形及び売掛金	2,306,711	121		
投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)		202,529		
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他		19,349		
リース債権及びリース投資資産	742,907	1,740,228	67,235	
合計	5,954,156	1,962,228	67,235	

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	2,870,134			
受取手形及び売掛金	2,303,130	138,763		
投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)	100,200	100,768		
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他		19,134		
リース債権及びリース投資資産	683,818	1,462,590	37,659	
合計	5,957,284	1,721,257	37,659	

(注4)短期借入金、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
短期借入金	907,301			
長期借入金	135,000	235,000		
リース債務	835,132	1,950,021	91,981	
合計	1,877,433	2,185,021	91,981	

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
短期借入金	907,301			
長期借入金	135,000	175,000		
リース債務	807,795	1,725,394	49,628	
合計	1,850,096	1,900,394	49,628	

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

区分	種類	連結貸借対照表計 上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの	社債	101,213	103,650	2,436
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの	社債	101,315	101,190	125
合計		202,529	204,840	2,310

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

区分	種類	連結貸借対照表計 上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの	社債	200,968	202,560	1,591
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの	社債			
合計		200,968	202,560	1,591

2. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

区分	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	138,091	50,448	87,643
	(2) その他	19,349	19,181	167
	小計	157,440	69,629	87,810
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	21,194	21,509	314
	(2) その他	9,293	9,487	194
	小計	30,488	30,996	508
合計		187,928	100,626	87,302

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

区分	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	178,791	76,351	102,440
	(2) その他			
	小計	178,791	76,351	102,440
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式			
	(2) その他	28,425	28,649	223
	小計	28,425	28,649	223
合計		207,217	105,000	102,216

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

また、前連結会計年度及び当連結会計年度において減損処理は行っておりません。

なお、減損処理にあたっては、連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

3. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

特記すべき事項はありません。

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

特記すべき事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定給付型の制度として、積立型の確定給付企業年金制度及び非積立型の退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、一部の連結子会社は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

また、当社及び子会社NCDテクノロジー(株)は、総合設立型の厚生年金基金に加入しておりますが、自社の拠出に対応する年金資産の額が合理的に計算できないため、退職給付債務の計算には含めておりません。

2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,361,921千円	2,470,244千円
勤務費用	175,585千円	174,196千円
利息費用	11,424千円	12,039千円
数理計算上の差異の発生額	14,707千円	142,160千円
退職給付の支払額	63,980千円	156,754千円
退職給付債務の期末残高	2,470,244千円	2,357,566千円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	915,982千円	987,615千円
期待運用収益	11,449千円	12,344千円
数理計算上の差異の発生額	15,377千円	25,559千円
事業主からの拠出額	70,785千円	75,202千円
退職給付の支払額	25,981千円	56,291千円
年金資産の期末残高	987,615千円	1,044,430千円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成29年3月31日)	(平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,212,655千円	1,175,718千円
年金資産	987,615千円	1,044,430千円
	225,040千円	131,287千円
非積立型制度の退職給付債務	1,257,588千円	1,181,847千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,482,629千円	1,313,135千円
退職給付に係る負債	1,482,629千円	1,313,135千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,482,629千円	1,313,135千円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	175,585千円	174,196千円
利息費用	11,424千円	12,039千円
期待運用収益	11,449千円	12,344千円
数理計算上の差異の費用処理額	175,560千円	30,084千円
確定給付制度に係る退職給付費用	351,121千円	143,806千円

(注) 上記退職給付費用以外に、割増退職金を前連結会計年度17,941千円、当連結会計年度4,980千円支払っております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
数理計算上の差異	205,645千円	137,634千円
合計	205,645千円	137,634千円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識数理計算上の差異	30,084千円	167,719千円
合計	30,084千円	167,719千円

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
一般勘定	34%	33%
債券	32%	38%
株式	27%	25%
その他	7%	4%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	0.5%	0.5%
長期期待運用収益率	1.25%	1.25%
予想昇給率	4.8%	4.5%

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	357,296千円	367,553千円
退職給付費用	49,989千円	53,427千円
退職給付の支払額	6,665千円	15,197千円
制度への拠出額	33,067千円	17,807千円
退職給付に係る負債の期末残高	367,553千円	387,976千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
積立型制度の退職給付債務	581,093千円	594,520千円
年金資産	223,807千円	226,746千円
	357,286千円	367,774千円
非積立型制度の退職給付債務	10,267千円	20,202千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	367,553千円	387,976千円
退職給付に係る負債	367,553千円	387,976千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	367,553千円	387,976千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度49,989千円 当連結会計年度53,427千円

(注) 上記退職給付費用以外に、割増退職金を前連結会計年度4,101千円、当連結会計年度5,169千円支払っております。

4. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度37,655千円、当連結会計年度38,601千円であります。(従業員拠出額は控除しております。)

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 平成28年 3月31日現在	当連結会計年度 平成29年 3月31日現在
年金資産の額	737,151,599千円	748,654,555千円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	715,710,918千円	732,391,260千円
差引額	21,440,681千円	16,263,295千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 0.55% (平成28年 3月31日現在)

当連結会計年度 0.60% (平成29年 3月31日現在)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度54,419千円、当連結会計年度28,770千円)及び剰余金(前連結会計年度21,495,100千円、当連結会計年度16,292,065千円)であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	580,924千円	535,857千円
賞与引当金	136,326千円	148,166千円
役員退職慰労引当金	42,630千円	23,217千円
資産除去債務	28,373千円	33,266千円
その他	82,338千円	126,675千円
繰延税金資産小計	870,592千円	867,182千円
評価性引当額	32,501千円	37,458千円
繰延税金資産合計	838,090千円	829,724千円
繰延税金負債		
有形固定資産	12,186千円	14,123千円
その他有価証券評価差額金	27,081千円	31,994千円
その他	千円	419千円
繰延税金負債合計	39,268千円	46,537千円
繰延税金資産の純額	798,822千円	783,186千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.5%	1.3%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1%	0.0%
住民税均等割等	3.2%	1.4%
法人税額の特別控除等	4.7%	2.5%
評価性引当額の増減	11.2%	0.5%
その他	1.6%	1.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.2%	32.9%

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品・サービスについての包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「システム開発事業」「サポート&サービス事業」「パーキングシステム事業」の3つを報告セグメントとしております。

「システム開発事業」は、システム開発及びシステム維持のサービスを提供しており、コンサルティング、システムインテグレーションサービス、パッケージソリューションサービス及びアプリケーションシステムの運用・保守を行っております。「サポート&サービス事業」は、テクニカルサポートサービス、ヘルプデスクサービス、アウトソーシングサービス及びシステム等管理運営を提供しております。「パーキングシステム事業」は、自転車駐車場管理システムの販売及び運営、並びにこれらに関するコンサルティング、関連商品の販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額 (注)3
	システム 開発事業	サポート& サービス事 業	パーキング システム事 業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,672,849	4,308,615	5,392,547	15,374,012	31,167	15,405,179		15,405,179
セグメント間の内部売上高又は振替高								
計	5,672,849	4,308,615	5,392,547	15,374,012	31,167	15,405,179		15,405,179
セグメント利益又は損失()	389,393	127,577	744,997	1,261,968	15,334	1,246,633	899,411	347,222
その他の項目								
減価償却費	11,293	6,298	170,245	187,837	105	187,942	23,785	211,728

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額には、セグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

なお、減価償却費については各セグメントに配分しておりますが、セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための対象としていないため、記載を省略しております。

3. セグメント利益又は損失()は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額 (注)3
	システム 開発事業	サポート& サービス事 業	パーキング システム事 業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,738,744	4,524,665	5,948,820	16,212,230	24,839	16,237,069		16,237,069
セグメント間の内部売上高又は振替高					2,394	2,394	2,394	
計	5,738,744	4,524,665	5,948,820	16,212,230	27,233	16,239,464	2,394	16,237,069
セグメント利益又は損失()	549,678	267,219	925,569	1,742,467	87,405	1,655,061	871,407	783,653
その他の項目								
減価償却費	18,329	5,726	184,108	208,164	349	208,513	19,099	227,613

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額には、セグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

なお、減価償却費については各セグメントに配分しておりますが、セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための対象としていないため、記載を省略しております。

3. セグメント利益又は損失()は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
メットライフ生命保険株式会社	2,141,025	システム開発事業及びサポート&サービス事業

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
メットライフ生命保険株式会社	2,103,367	システム開発事業及びサポート&サービス事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社(当該会社の子会社を含む)	エスアンドエス有限会社(注1)	東京都文京区	3,000	資産管理	なし	なし	自己株式の取得(注2)	297,960		

(注) 1. 当社役員下條治の近親者が議決権の100%を直接保有しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

自己株式の取得は、平成28年7月29日開催の取締役会決議に基づき、公開買付けにより当社普通株式780千株を382円で取得したものであります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	321円20銭	387円80銭
1株当たり当期純利益	30円00銭	66円31銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	249,410	526,635
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	249,410	526,635
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,311	7,941

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	2,550,843	3,089,195
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		9,529
(うち非支配株主持分(千円))		(9,529)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,550,843	3,079,665
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(千株)	7,941	7,941

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	907,301	907,301	0.6	
1年以内に返済予定の長期借入金	135,000	135,000	1.0	
1年以内に返済予定のリース債務	835,132	807,795	2.5	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	235,000	175,000	0.8	平成33年9月30日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	2,042,002	1,775,022	2.3	平成31年5月9日～ 平成36年3月30日
合計	4,154,436	3,800,118		

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金等残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	85,000	60,000	30,000	
リース債務	646,609	523,903	368,667	186,213

3. リース債務は、転リース契約及びリース資産によるものであり、転リース契約については、同額のリース債権及びリース投資資産を計上しております。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	3,785,114	7,926,865	12,001,771	16,237,069
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (千円)	102,781	418,978	631,101	784,478
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	68,813	282,982	423,255	526,635
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	8.66	35.63	53.29	66.31

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益 (円)	8.66	26.96	17.66	13.01

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)		当事業年度 (平成30年 3月31日)	
資産の部				
流動資産				
現金及び預金	2	2,015,460	2	1,877,060
売掛金	1	1,967,859	1	2,115,631
リース投資資産		742,907		683,818
商品及び製品		40,318		41,972
仕掛品		142,825		80,800
前払費用		55,585		61,142
立替金	1	112,653		108,528
繰延税金資産		169,485		188,745
その他	1	8,858	1	30,015
貸倒引当金				1,132
流動資産合計		5,255,955		5,186,582
固定資産				
有形固定資産				
建物	2	56,891	2	350,808
構築物		5,364		12,292
車両運搬具		0		
工具、器具及び備品		165,726		157,276
土地	2	317,735	2	482,259
リース資産		324,800		399,991
有形固定資産合計		870,518		1,402,628
無形固定資産				
ソフトウェア		105,118		71,559
その他		6,176		5,367
無形固定資産合計		111,294		76,926
投資その他の資産				
投資有価証券	2	176,457	2	182,618
関係会社株式		1,080,901		1,101,001
繰延税金資産		461,613		470,367
敷金及び保証金		211,613		232,990
リース投資資産		1,807,463		1,500,249
その他		15,686		749
投資その他の資産合計		3,753,736		3,487,977
固定資産合計		4,735,550		4,967,533
資産合計		9,991,506		10,154,115

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)		当事業年度 (平成30年3月31日)	
負債の部				
流動負債				
買掛金	1	696,921	1	637,177
短期借入金	2	899,801	2	899,801
1年内返済予定の長期借入金	2	135,000	2	135,000
リース債務		834,659		807,313
未払金		171,239	1	237,380
未払費用		201,039		247,485
未払法人税等		134,299		206,907
前受金		73,232		33,669
預り金		73,325		118,166
賞与引当金		419,746		455,614
その他		122,020		91,482
流動負債合計		3,761,286		3,869,998
固定負債				
長期借入金	2	235,000	2	175,000
リース債務		2,039,933		1,773,435
賞与引当金				26,985
退職給付引当金		1,512,714		1,480,855
株式報酬引当金				37,500
役員退職慰労引当金		74,509		
その他	1	80,466	1	145,103
固定負債合計		3,942,624		3,638,880
負債合計		7,703,911		7,508,878
純資産の部				
株主資本				
資本金		438,750		438,750
資本剰余金				
資本準備金		903,593		903,593
資本剰余金合計		903,593		903,593
利益剰余金				
利益準備金		59,000		59,000
その他利益剰余金				
別途積立金		1,000,000		1,000,000
繰越利益剰余金		149,436		502,852
利益剰余金合計		1,208,436		1,561,852
自己株式		317,401		317,463
株主資本合計		2,233,378		2,586,731
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金		54,216		58,505
評価・換算差額等合計		54,216		58,505
純資産合計		2,287,594		2,645,237
負債純資産合計		9,991,506		10,154,115

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)		(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	
売上高	1	13,176,759		13,929,253
売上原価	1	11,457,660	1	11,705,192
売上総利益		1,719,099		2,224,060
販売費及び一般管理費	1, 2	1,489,363	1, 2	1,542,819
営業利益		229,735		681,241
営業外収益				
受取利息及び受取配当金		3,243		4,320
補助金収入		5,026		14,069
受取保険金及び配当金		2,926		6,901
受取家賃		4,668		4,501
その他		5,833		6,008
営業外収益合計		21,699		35,801
営業外費用				
支払利息		17,334		18,364
自己株式取得費用		17,267		
その他		3,619		3,811
営業外費用合計		38,221		22,176
経常利益		213,213		694,866
特別損失				
固定資産除却損				5,820
減損損失		2,557		17,212
関係会社清算損		1,816		
特別損失合計		4,374		23,033
税引前当期純利益		208,838		671,833
法人税、住民税及び事業税		149,329		245,085
法人税等調整額		72,271		29,905
法人税等合計		77,058		215,179
当期純利益		131,780		456,653

【売上原価明細書】

A システム開発事業売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
人件費	1	2,118,440	55.1	2,052,330	54.0
外注費		1,583,744	41.2	1,574,866	41.5
経費		140,423	3.7	169,366	4.5
当期総製造費用		3,842,607	100.0	3,796,562	100.0
期首仕掛品たな卸高		45,382		35,837	
合計		3,887,989		3,832,400	
期末仕掛品たな卸高		35,837		46,564	
当期システム開発事業 売上原価		3,852,152		3,785,835	

(注)

前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	
1	経費の主な内訳は、次のとおりであります。 地代家賃 42,024千円	1	経費の主な内訳は、次のとおりであります。 地代家賃 44,685千円
2	原価計算の方法 当社の原価計算は、実際原価による個別原 価計算を採用しております。	2	原価計算の方法 同左

B サポート&サービス事業売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
人件費	1	1,201,208	36.8	1,219,705	37.9
外注費		1,905,106	58.4	1,834,290	57.0
経費		155,706	4.8	165,097	5.1
当期総製造費用		3,262,022	100.0	3,219,093	100.0
期首仕掛品たな卸高		22,512		36,085	
合計		3,284,534		3,255,178	
期末仕掛品たな卸高		36,085		473	
当期サポート&サービス 事業売上原価		3,248,449		3,254,704	

(注)

前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	
1	経費の主な内訳は、次のとおりであります。 地代家賃 88,445千円	1	経費の主な内訳は、次のとおりであります。 地代家賃 89,385千円
2	原価計算の方法 当社の原価計算は、実際原価による個別原 価計算を採用しております。	2	原価計算の方法 同左

C パーキングシステム事業売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
人件費	1	317,593	7.5	280,285	6.2
外注費		3,041,808	71.4	3,302,351	73.2
経費		897,344	21.1	928,755	20.6
当期総製造費用		4,256,746	100.0	4,511,393	100.0
期首仕掛品たな卸高		105,843		70,902	
合計		4,362,590		4,582,295	
期末仕掛品たな卸高		70,902		28,009	
当期パーキングシステム 事業原価		4,291,687		4,554,286	
期首商品たな卸高		26,327		40,318	
当期商品仕入高		79,362		95,834	
合計	105,689		136,153		
期末商品たな卸高	40,318		41,972		
当期パーキングシステム 事業商品売上原価	2	65,370		94,181	
当期パーキングシステム 事業売上原価		4,357,058		4,648,467	

(注)

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 地代家賃 210,509千円 減価償却費 169,866千円	1 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 地代家賃 246,032千円 減価償却費 183,686千円
2 主に駐輪機器(商品)の売上に係る原価であります。	2 主に駐輪機器(商品)の売上に係る原価であります。
3 原価計算の方法 当社の原価計算は、実際原価による個別原価計算を採用しております。	3 原価計算の方法 同左

D その他事業売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
人件費	1			5,251	23.9
外注費				16,250	74.1
経費				434	2.0
当期総製造費用				21,937	100.0
期首仕掛品たな卸高					
合計				21,937	
期末仕掛品たな卸高				5,752	
当期その他事業売上原価				16,184	

(注)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
1		1 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 減価償却費 289千円
2 原価計算の方法 当社の原価計算は、実際原価による個別原 価計算を採用しております。		2 原価計算の方法 同左

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
					別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	438,750	903,593	903,593	59,000	1,000,000	100,971	1,159,971
当期変動額							
剰余金の配当						83,314	83,314
当期純利益						131,780	131,780
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計						48,465	48,465
当期末残高	438,750	903,593	903,593	59,000	1,000,000	149,436	1,208,436

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	19,402	2,482,912	32,850	32,850	2,515,762
当期変動額					
剰余金の配当		83,314			83,314
当期純利益		131,780			131,780
自己株式の取得	297,999	297,999			297,999
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			21,365	21,365	21,365
当期変動額合計	297,999	249,533	21,365	21,365	228,167
当期末残高	317,401	2,233,378	54,216	54,216	2,287,594

当事業年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
				別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	438,750	903,593	903,593	59,000	1,000,000	149,436	1,208,436
当期変動額							
剰余金の配当						103,238	103,238
当期純利益						456,653	456,653
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計						353,415	353,415
当期末残高	438,750	903,593	903,593	59,000	1,000,000	502,852	1,561,852

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	317,401	2,233,378	54,216	54,216	2,287,594
当期変動額					
剰余金の配当		103,238			103,238
当期純利益		456,653			456,653
自己株式の取得	62	62			62
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			4,289	4,289	4,289
当期変動額合計	62	353,353	4,289	4,289	357,642
当期末残高	317,463	2,586,731	58,505	58,505	2,645,237

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品及び製品

主に総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、定額法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 10～34年

工具、器具及び備品 5～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、市場販売目的のソフトウェアについては、経済的耐用年数(3年)に基づく定額法によっております。

自社利用ソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 株式報酬引当金

取締役及び執行役員を対象とした業績連動型株式報酬制度による当社株式の交付に備えるため、役員規程に基づき、株式の支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、翌事業年度に一括費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

5. 収益及び費用の計上基準

受注制作ソフトウェアの計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるもの

工事進行基準（進捗率の見積りは原価比例法）

その他のもの

検収基準

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

「未払消費税等」の表示方法は、従来、貸借対照表上、流動負債の「未払消費税等」（前事業年度112,308千円）として表示しておりましたが、重要性が乏しくなったため、当事業年度より、流動負債の「その他」（当事業年度83,382千円）に含めて表示しております。

(追加情報)

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社は、平成29年6月23日開催の第52回の定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給を決議いたしました。

これに伴い、「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打ち切り支給額の未払分37,910千円を「長期未払金」として固定負債の「その他」に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	10,531千円	16,329千円
短期金銭債務	43,372千円	51,892千円
長期金銭債務	702千円	702千円

2 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
現金及び預金	67,000千円	67,000千円
建物	20,275千円	17,991千円
土地	112,287千円	112,287千円
投資有価証券	6,997千円	6,970千円
計	206,559千円	204,249千円

(2) 担保に係る債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	300,001千円	300,001千円
1年内返済予定の長期借入金	30,000千円	30,000千円
長期借入金	105,000千円	75,000千円
計	435,001千円	405,001千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当事業年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
営業取引(収入分)	8,986千円	千円
営業取引(支出分)	471,402千円	508,030千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当事業年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
役員報酬	112,860千円	97,200千円
給料及び手当	420,104千円	482,399千円
賞与	49,137千円	56,046千円
賞与引当金繰入額	59,997千円	72,663千円
退職給付費用	79,067千円	32,552千円
役員退職慰労引当金繰入額	14,044千円	2,837千円
株式報酬引当金繰入額	千円	37,500千円
法定福利費	95,449千円	99,055千円
業務委託費	70,398千円	85,631千円
減価償却費	24,179千円	19,546千円
地代家賃	107,810千円	109,191千円
貸倒引当金繰入額	11,440千円	1,658千円

おおよその割合

販売費	39%	43%
一般管理費	61%	57%

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載していません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	1,080,901	1,101,001

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	463,059千円	453,141千円
賞与引当金	129,701千円	139,418千円
資産除去債務	24,683千円	29,547千円
役員退職慰労引当金	22,908千円	千円
未払社会保険料	18,555千円	23,073千円
その他	59,034千円	109,499千円
繰延税金資産小計	717,943千円	754,680千円
評価性引当額	53,550千円	57,653千円
繰延税金資産合計	664,392千円	697,027千円
繰延税金負債		
有形固定資産	9,389千円	11,698千円
その他有価証券評価差額金	23,905千円	25,796千円
その他		419千円
繰延税金負債合計	33,294千円	37,914千円
繰延税金資産の純額	631,098千円	659,112千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	7.1%	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1%	
住民税均等割等	4.8%	
法人税額の特別控除等	7.3%	
評価性引当額の増減	2.0%	
その他	0.5%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.9%	

(注) 当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	56,891	302,665	68	8,678	350,808	142,726
	構築物	5,364	7,800		872	12,292	9,228
	車両運搬具	0		0			
	工具、器具及び備品	165,726	65,648	35,055 (3,255)	39,042	157,276	474,062
	土地	317,735	164,523			482,259	
	リース資産	324,800	208,174	4,224 (3,391)	128,759	399,991	281,807
	計	870,518	748,812	39,349 (6,647)	177,352	1,402,628	907,826
無形固定資産	ソフトウェア	105,118	18,715	10,292 (10,292)	41,982	71,559	469,345
	その他	6,176	190	578 (272)	420	5,367	3,919
	計	111,294	18,905	10,871 (10,565)	42,402	76,926	473,265

- (注) 1. 当期減少額の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。
 2. 建物の当期増加額の主なものは、社宅の215,409千円であります。
 3. 土地の当期増加額の主なものは、社宅の164,523千円であります。
 4. リース資産の当期増加額の主なものは、駐輪場設備の199,148千円であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金		1,132		1,132
賞与引当金(流動)	419,746	455,614	419,746	455,614
賞与引当金(固定)		26,985		26,985
株式報酬引当金		37,500		37,500
役員退職慰労引当金	74,509		74,509	

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。 http://www.ncd.co.jp/
株主に対する特典	毎年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された1,000株以上の株式を保有していただいている株主様に対し、次のとおり所有株数に応じて株主優待を実施いたします。 1,000株以上3,000株未満保有の株主様：「JCBギフトカード2,000円分」 又は 「宮城県産米ひとめぼれ2kg」 又は 「日本赤十字社へ2,000円を寄付」 3,000株以上5,000株未満保有の株主様：「JCBギフトカード3,000円分」 又は 「宮城県産米ひとめぼれ5kg」 又は 「日本赤十字社へ3,000円を寄付」 5,000株以上保有の株主様：「JCBギフトカード5,000円分」 又は 「宮城県産米ひとめぼれ10kg」 又は 「日本赤十字社へ5,000円を寄付」 贈呈時期 ご希望の優待品を確認させていただいた上で、贈呈及び寄付をいたします。 贈呈時期は12月下旬以降の発送を予定しております。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

取得請求権付株式の取得を請求する権利

募集株式又は募集新株予約権の割当を受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第52期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年6月23日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月23日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第53期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) 平成29年8月10日関東財務局長に提出。

第53期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日) 平成29年11月10日関東財務局長に提出。

第53期第3四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日) 平成30年2月9日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成29年6月26日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月22日

日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 横内 龍也

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小野原 徳郎

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月22日

日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 横内 龍也

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小野原 徳郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第53期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。